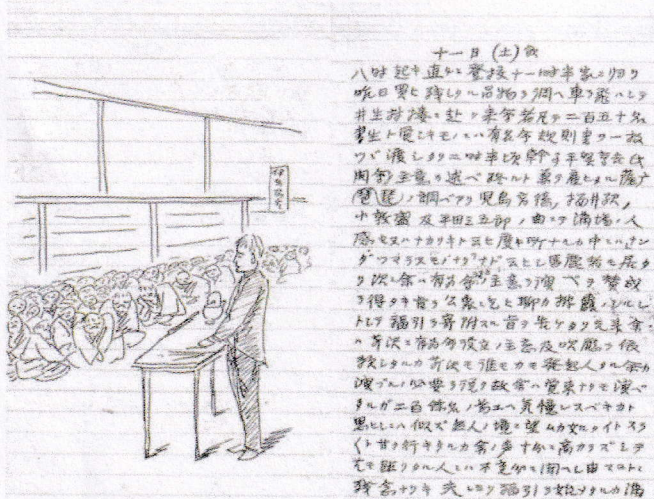


「うきよの旅」にみる設立当初の会員勧誘活動

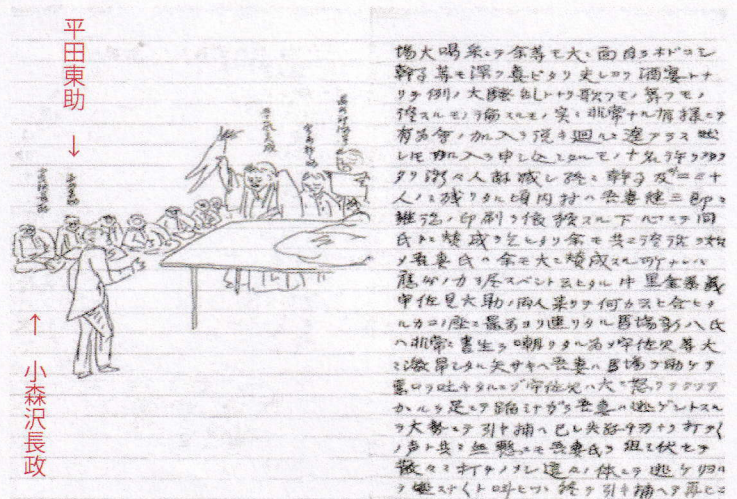
伊東忠太は明治 22（1889）年から同 26 年まで、日記「うきよの旅」を残し、その中に有為会設立当初の動向が記されています。（日記は、遺族から日本建築学会に寄贈され、日本建築学会博物館デジタルライブラリーで公開されています。）



有為会設立当時の忠太自画像
（「うきよの旅」より）



大親睦会で有為会の会員勧誘演説をする忠太
（「うきよの旅」より）



日本建築学会所蔵

米沢大親睦会の勧誘と運動会の開催

明治 23 年 1 月 11 日に浅草で開かれた米沢大親睦会には約 250 名が参加する盛会となり、その中で忠太は有為会の設立を報告し、入会を勧誘する演説を行いました。また、大親睦会では福引なども行われ、有為会も景品を提供しました。

忠太が描いた図（上記）には、後の第 2 代会長小森沢長政、忠太の伯父で第 3 代会長の平田東助も描かれています。忠太の勧誘に影響されたのか、翌週 18 日に開かれた臨時会には 36 名が参会しました。

4 月 3 日には飛鳥山公園（東京都北区）にて第 1 回運動会を開催、綱引・長飛・高飛・竿飛・競争・相撲などの競技に 40 名弱の会員が汗を流しました。この運動会は、現在の東京支部園遊会の嚆矢となりました。

また、夏には米沢と山形にて有為会の設立意義普及と会員勧誘を行い、その年の 12 月には会員は 429 名にのぼるとともに、会員は全国各地から集まり、東京部・米沢部・山形部・地方部の四部組織となりました。